

J A 御中
(営農担当部署)

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

営農情報 15

《トビイロウンカの警報発表》

本年は、トビイロウンカの発生量が非常に多く、8月下旬から早植えの「夢つくし」を中心に「坪枯れ」が発生しています。9月上旬調査でも約7割のほ場が要防除水準を超え、福岡県農林業総合試験場（福岡県病害虫防除所）から、8月2日、8月23日の注意報に続き、9月9日付けで、警報が発表されました。

今後、他の品種においてもほ場内で急激に増加し「坪枯れ」の多発も懸念されますので、発生状況に十分に注意してください。

○県内の定点ほ場での発生状況（9月2半旬）

	本年	過去の多発生年	
		2017年	2013年
10株当たり払い落とし虫数（頭）	106.6	24.1	86.1
発生ほ場率（%）	100	90.9	95.1

・10株当たり払い落とし虫数は要防除水準を超えており、多発生年より多い。

〈防除上、注意すべき事項〉

【要防除水準】トビイロウンカ：幼虫の合計数

- ・飛来後第2世代(9月上～中旬) : 10株当たり10頭以上
- ・飛来後第3世代(9月下旬) : 10株当たり100頭以上

- ・早植え水稻では、刈り遅れがないように適期収穫に努めましょう。
- ・坪枯れが発生し始めたら、可能な限り収穫を早め、減収の拡大を防ぎましょう。早生品種以降で収穫までに期間がある場合は、直ちに防除を実施しましょう。
- ・出穂後は薬剤が株元まで到達しにくくなるため、防除にあつては、薬剤が株元まで確実に届くよう丁寧に散布し、散布後に防除効果を必ず確認しましょう。
- ・「実りつくし」やモチ等の中晩生品種、飼料用米は、栽培期間が長く「坪枯れ」が多発する傾向があるため、発生状況に十分に注意しましょう。
- ・降雨のため、粉剤及び液剤の散布が難しい場合は、粒剤の使用も検討しましょう。
- ・トビイロウンカは、感受性が低下している薬剤もあるため、薬剤の選定はJ Aなどと相談して決めましょう。
- ・薬剤防除にあたっては、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を確認し、適切な薬剤散布を実施しましょう。

以上